

令和7年度防衛省行政事業レビュー外部有識者会合

議事概要

1 日 時 令和7年5月15日（木） 10:30～12:00

2 場 所 防衛省会議室（68号棟3階会議室）

3 参加者

（1）外部有識者（敬称略、五十音順）

・ 防衛省 外部有識者

伊藤 由希子 慶応義塾大学大学院商学研究科 教授

白坂 成功 慶応義塾大学大学院

システムデザイン・マネジメント研究科 教授

高橋 玲路 アンダーソン・毛利・友常法律事務所

外国法共同事業 弁護士

中田 るみ子 協和キリン株式会社 デンカ株式会社

社外取締役兼任

林 敬子 公認会計士

早稲田大学大学院会計研究科 教授（座長）

・ 内閣官房行政改革推進本部事務局 外部有識者

伊藤 伸 政策シンクタンク構想日本 総括ディレクター

川澤 良子 Social Policy Lab 株式会社 代表取締役

小林 庸平 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

政策研究事業本部経済財政政策部主任研究員

独立行政法人経済産業研究所コンサルティングフェロー

小林 航 亜細亜大学経済学部 教授

中空 麻奈 BNP パリバ証券グローバルマーケット統括本部副会長

（2）内閣官房行政改革推進本部事務局

（3）大臣官房審議官、大臣官房企画評価課、大臣官房会計課、事業所管部局担当課等（説明者）

4 議事概要

（1）防衛省から、令和7年度の公開プロセス対象候補として、

・ 主機等オーバーホール

・ 騒音防止事業（一般防音）

- ・ 防衛セキュリティゲートウェイの整備
- ・ 戦略的コミュニケーション
- ・ A I 導入推進

以上 5 事業について説明を行い、各有識者から意見等が述べられた後、各有識者の総意により、

- ・ 主機等オーバーホール
- ・ 防衛セキュリティゲートウェイの整備
- ・ A I 導入推進

以上 3 事業が令和 7 年度の公開プロセス対象事業として選定された。

(2) 外部有識者からの主なコメント

【主機等オーバーホール】

- ・ 主機等そのものの品質の改良・耐用年数の向上について、製造元に求めているのか。
- ・ P B L の対象を更に束ねることにより、企業側に装備品のパフォーマンスそのものに責任を負ってもらうようにできるし、効率化にも資すると思料。
- ・ 経費削減の額を成果指標とすることはできないのか。

【騒音防止事業（一般防音）】

- ・ 騒音の測定方法について、実際にどのような測定方法を検討しているか。
- ・ 測定について、A I を導入すべきではないか。

【防衛セキュリティゲートウェイの整備】

- ・ 安心してデータのやりとりができるということの価値は非常に高いと考えるが、企業はどういう観点で使用しないのか。
- ・ アウトカムが加入割合となっているが、加入することで成功というよりも、加入した上で問題が起きないということなのではないのか。
- ・ この事業の効果は、例えば、手続きにかかる時間が減らせるとか、メールや紙媒体での情報のやり取りが削減できるという情報セキュリティ上の利点、と考えるが、そのあたりを指標として追加する必要はないか。

【戦略的コミュニケーション】

- ・防衛省の中で誰がその情報発信を担うのか。それによって本事業をどのように進めていくべきかが変わってくる可能性があるのではないか。
- ・戦略的コミュニケーションが日本の安全保障になぜ役立つのかというロジックをより明確に説明すべきではないか。

【A I 導入推進】

- ・システムの中にA Iを導入する際に、A Iのことだけを考えるとうまくいかないので、システム全体をデザインできる人材の育成などが必要と考える。
- ・アウトカムが助言等を受けた件数となっているが、重要なのは、どのような事業や現場でA I活用のポテンシャル技術があって、それを形にするために、A I活用に係る課題を明確化するといった「前裁き」が重要と考えるところ、この「前裁き」として、どのような活動が行われているのか。